

# 目 介 祐



大田ゆうすけ No.12  
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

## スポーツで福山を盛り上げる

今年の夏はロンドンオリンピックと高校野球のおかげで「熱い」夏となった。メダリストや甲子園代表校を輩出した町は大いに盛り上がった。福山市出身の選手も柔道の平岡選手(近大附属高)が銀メダルを獲得したが、マイナースポーツで脚光を浴びるにはオリンピックでメダルを取ることであり、次回のリオデジャネイロでは、飛び込みの新良貴選手(葦陽高)に期待したい。高校野球においては盈進高校が県大会決勝で敗れたものあと一歩であった。福山市内の高校が甲子園に出場したのは平成元年の近大附属福山高校が最後であり、以後23年間にわたり出場が途切れている。私は福山市の高校が甲子園に行くことが町を盛り上げる大きな起爆剤になると考えている。

7月14日に行われた都市対抗野球JFE西日本対日立製

作所の試合を観戦したが、倉敷市長・福山市長をはじめめとする大応援団が東京ドームに参集し、オレンジ色の日立の応援団と応援合戦が繰り広げられた。試合は手に汗握る接戦となり、JFE西日本の逆転勝ちで幕を閉じた。福山からの大応援団は大いに盛り上がったが、同じことが甲子園において実現したら素晴らしいだろう。そのためには中学生の硬式野球チームを強化することが、市内高校の甲子園への近道と考える。

私は10年前に結成された「福山リトルシニア」の支援を行っているが、当初はお話にならないほど弱かった。しかし今年初の全国大会出場を果たし、チームの主催大会である「大田祥子旗争奪野球大会」において初優勝も遂げた。そして卒団生が盈進高校へも進学するようになったが、正田監督と交わした「盈進に良い選手を送り込む」という以前からの約束がやっと実りつつある。

名選手を輩出するにはそれなりの土壌と支援体制が必須だ。選手の支援だけでなく、グラウンド等の施設整備やボランティアの監督・コーチに対する支援も行い、いつの日か福山からモイチローが誕生してもらいたいものだ。